

progmat | Security Token
Research Consortium

【Progmat Coin】 コンセプトペーパー

2022年2月

三菱UFJ信託銀行株式会社
経営企画部デジタル企画室



目次

#01 背景と全体像

- #01-1. デジタルアセットの定義
- #01-2. 潮流・意義
- #01-3. 「Progmat」による市場変革・新市場創出
- #01-4. 拡張するエコシステム

#02 「Progmat Coin」の概要

- #02-1. 「Progmat Coin」のコンセプト
- #02-2. 「Progmat Coin」のグランドデザイン
- #02-3. 「Progmat Coin」のスキーム
- #02-4. 「Progmat Coin」のライフサイクル

#03 ユースケース「ST決済」

- #03-1. ST取引におけるメリット

#01

// 背景と全体像

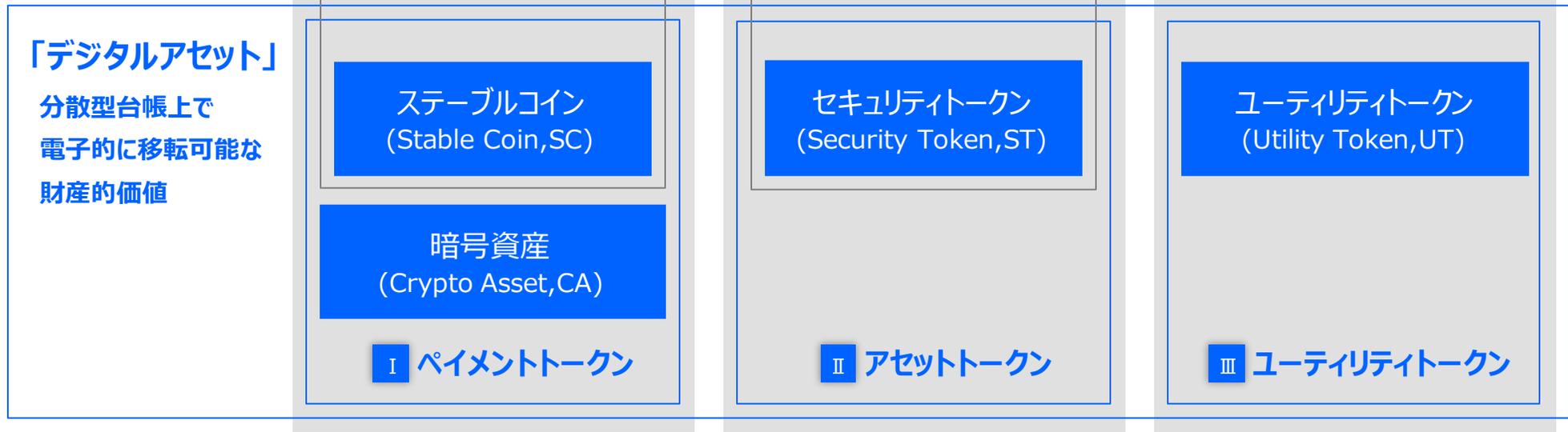
#01-1 デジタルアセットの定義

- 「デジタルアセット」は多義的だが、分散型台帳(Distributed Ledger Technology,以下DLT)上で電子的に移転可能な財産的価値とされる。
- 決済手段として利用され、「電子的支払手段」と定義される「Stable Coin(以下SC)」や、「暗号資産」と定義される「Crypto Asset(以下CA)」のほか、各国で証券規制が適用され、国内では「電子記録移転有価証券表示権利等」と定義される「Security Token(以下ST)」や、特定の権利行使や役務提供を受けるために必要となる「Utility Token(以下UT)」が存在する。

決済手段として利用される

特定の事業・資産に裏付けられている、保有すると利益分配を受ける

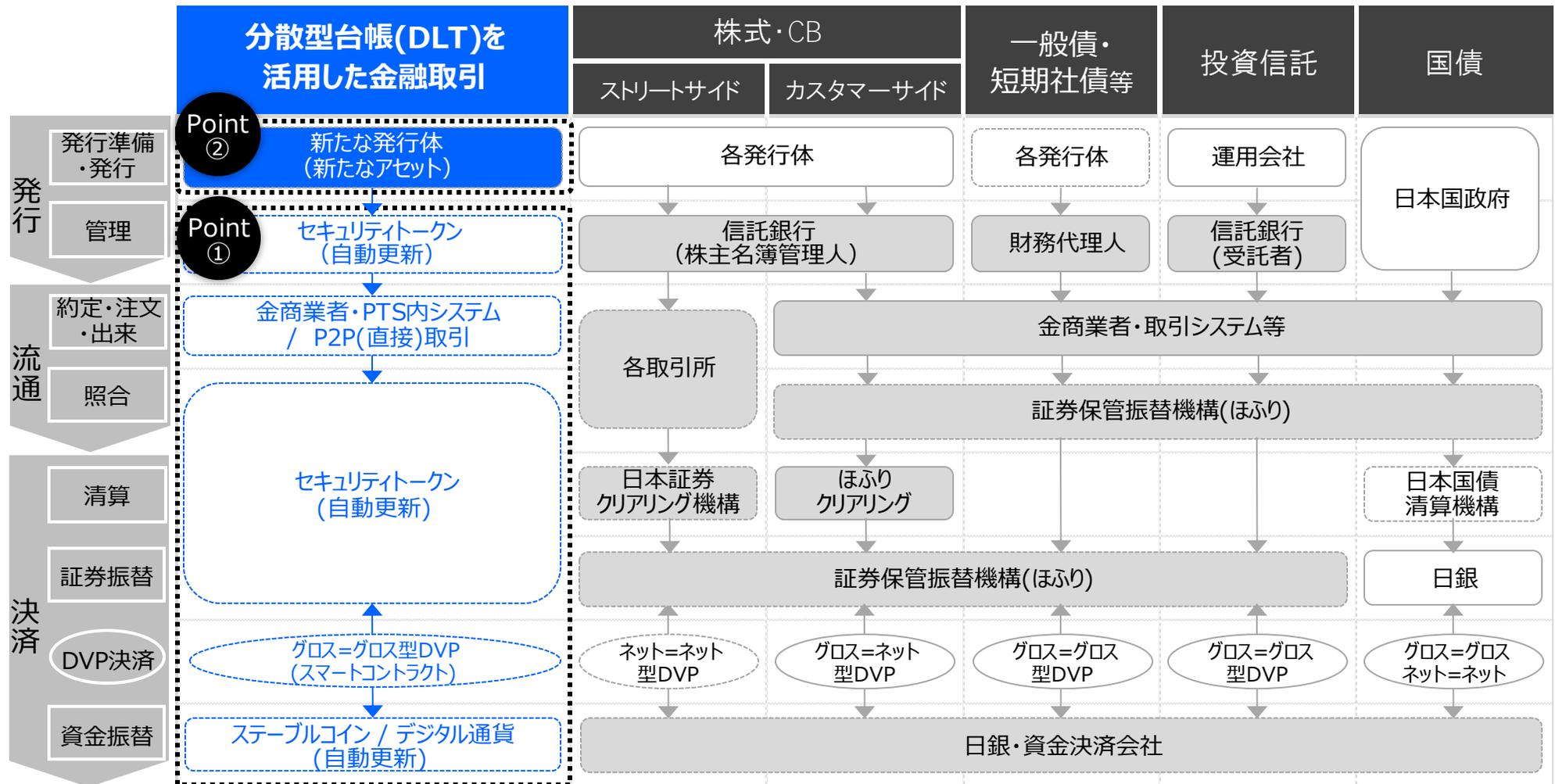
特定の権利の行使や役務の提供を受けるために必要となる



I II III …【出典】：FINMA(スイス 金融市場監督局)「ICO guidelines」による分類

#01-2 潮流・意義

- 「ICO(Initial Coin Offering)」起点の「デジタルアセットによる資金調達」の流れから、STを起点とした金融取引のバリューチェーン変革が始まっている。
- 1点目のインパクトは「市場インフラのSTP化・自動化」…「各種コスト低減(特に業者間連携)」、「決済期間短縮」、「オペリスク・決済リスク低減」。
- 2点目のインパクトは「上記効果による新市場の創出」…「多様な資産の証券化」、「小口発行市場」、「小口投資市場」。
- 上記インパクトは、資金決済手段としてSTとシームレスに自動連携可能なSCの存在により、加速される。

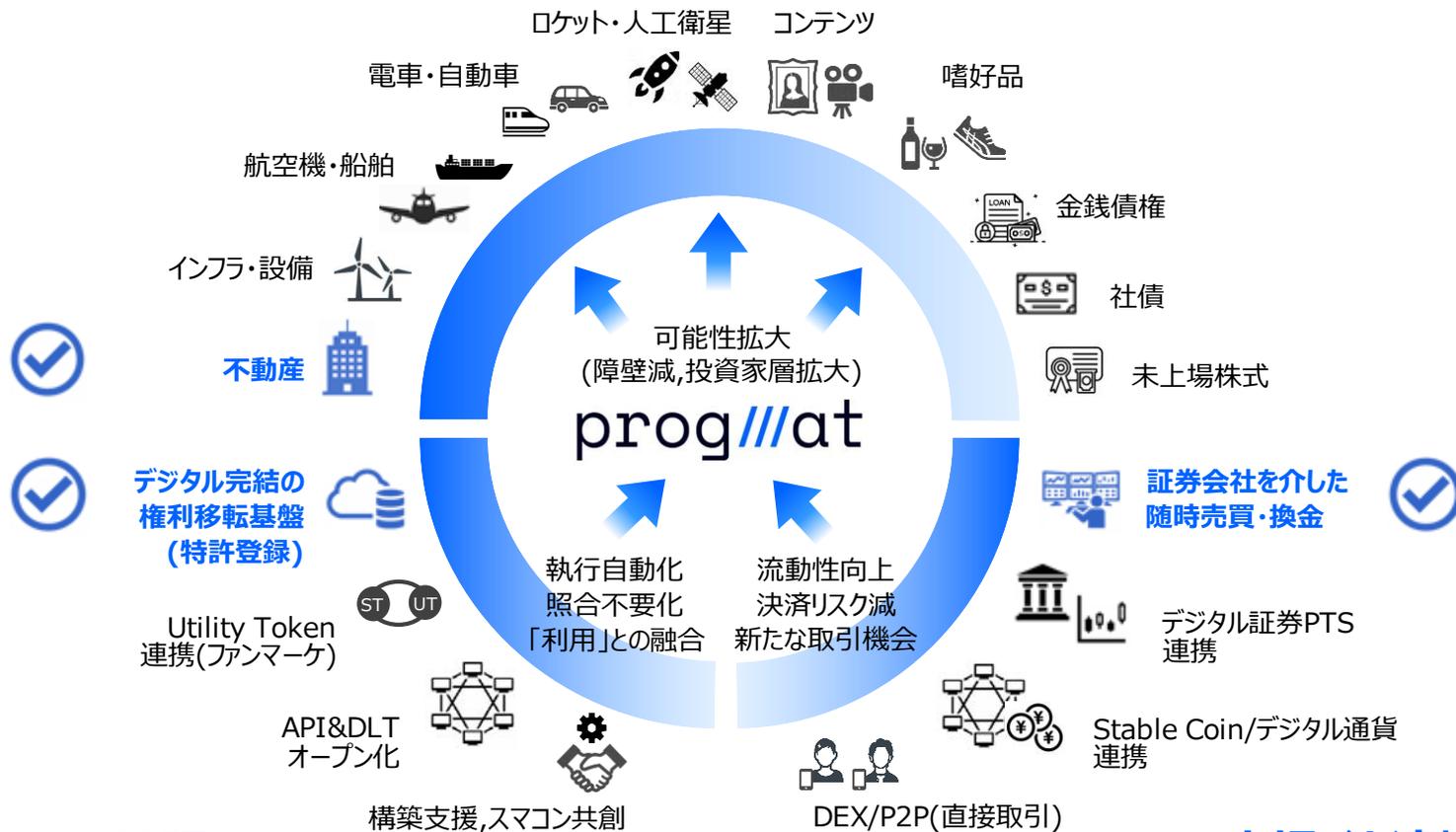


#01-3 「Progmat」による市場変革・新市場創出

- DLTを中核とした金融インフラである「Progmat」は、金融取引のバリューチェーンのDXと新市場創出を志向し、大きく3つの方向性で拡張中。
 - ①投資対象STの多様化 …②③進展による「既存の実務上の障壁解消」と「新たな投資家層拡大」を通じて、これまでにない商品市場を創出する。
 - ②プラットフォームの拡張 …組織間連携のシームレス化による執行自動化・照合不要化と共に、ST×UTによる「投資×利用」の融合も可能にする。
 - ③市場・決済機能の拡張 …デジタル証券PTS・SC/デジタル通貨・DEXにより、流動性向上、及び決済リスクや中間コストの極小化を実現する。

☑ …実現済み

投資対象STの多様化

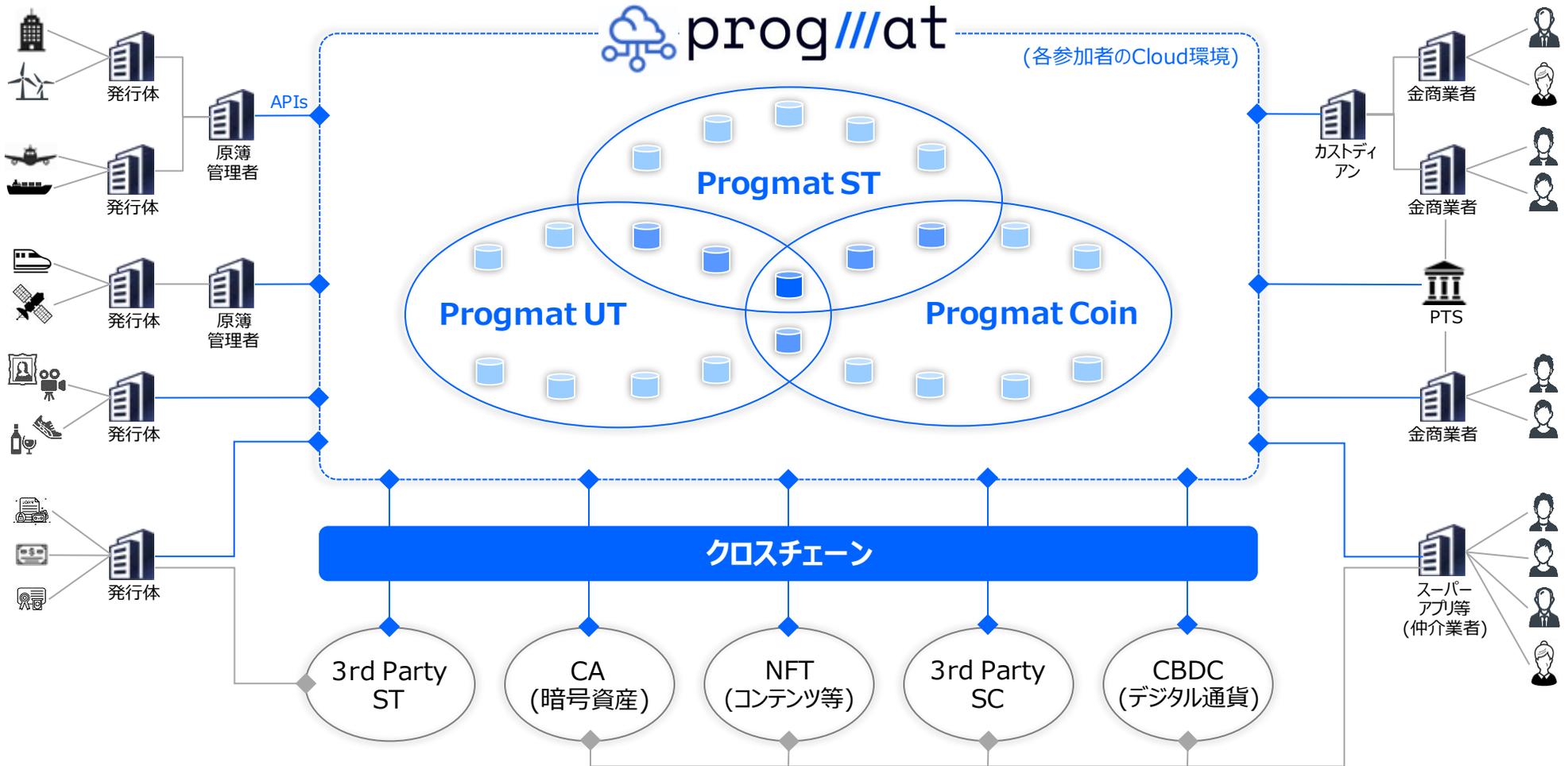


プラットフォームの拡張

市場・決済機能の拡張

#01-4 拡張するエコシステム

- 「Progmat」は、Node保有又はAPIを介して、様々な発行体・原簿管理者・金商業者・仲介業者・カストディアン等が参加可能なオープンな仕組み。
- 「ST」「SC」「UT」を発行・管理するための独立したネットワーク(NW)で構成され、クロスチェーンにより他のデジタルアセットとの連携も想定している。
- デジタルアセットに関する様々なユースケースを企業横断で具現化する枠組みに、80社を超える企業が参画しており、複数のWGや個別PJが並走中。



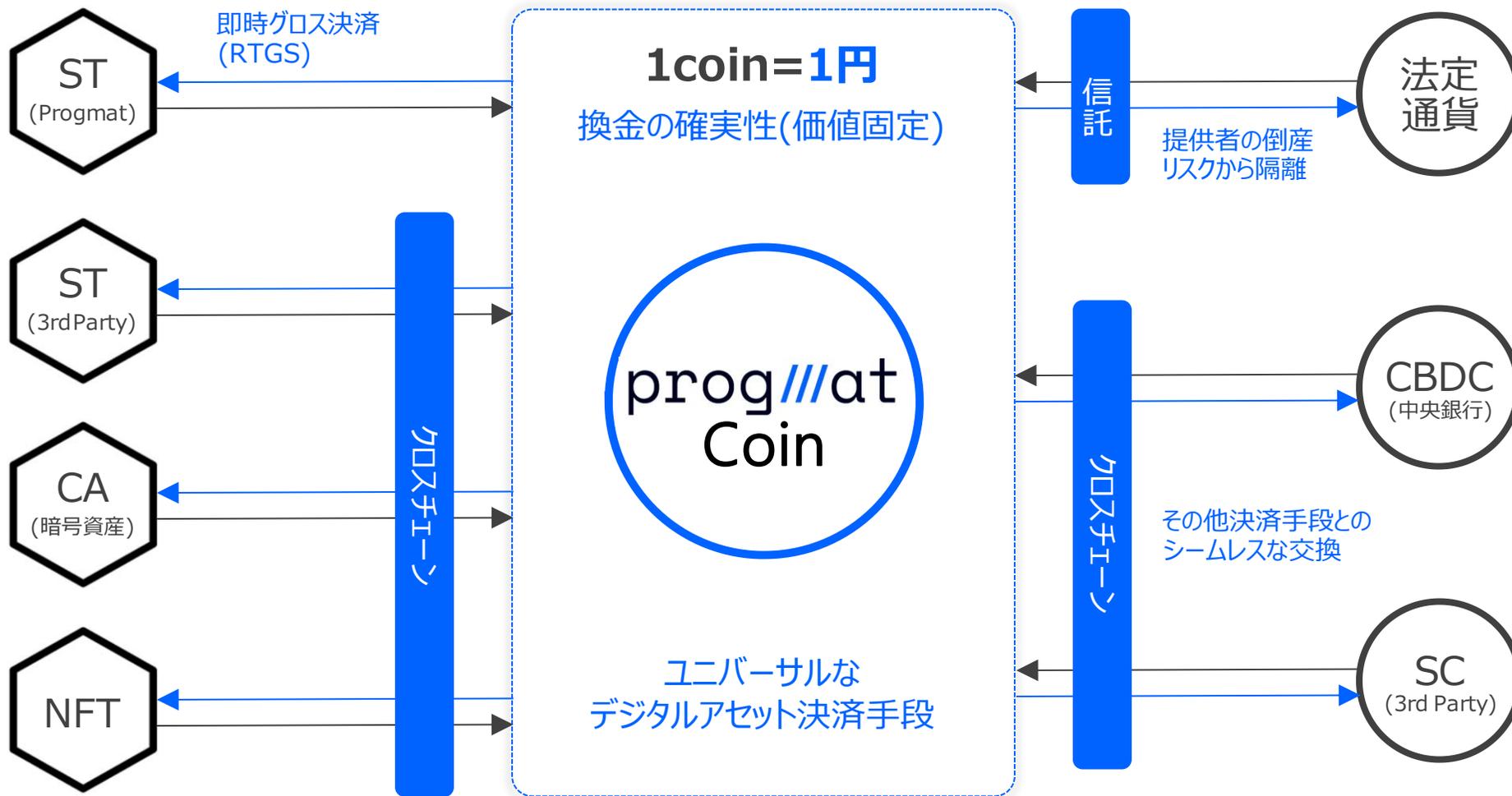
【凡例】 ■ :Node(全NW参加) ■ :Node(2つのNWに参加) ■ :Node(1つのNWのみ参加)

#02

// 「Progmat Coin」の概要

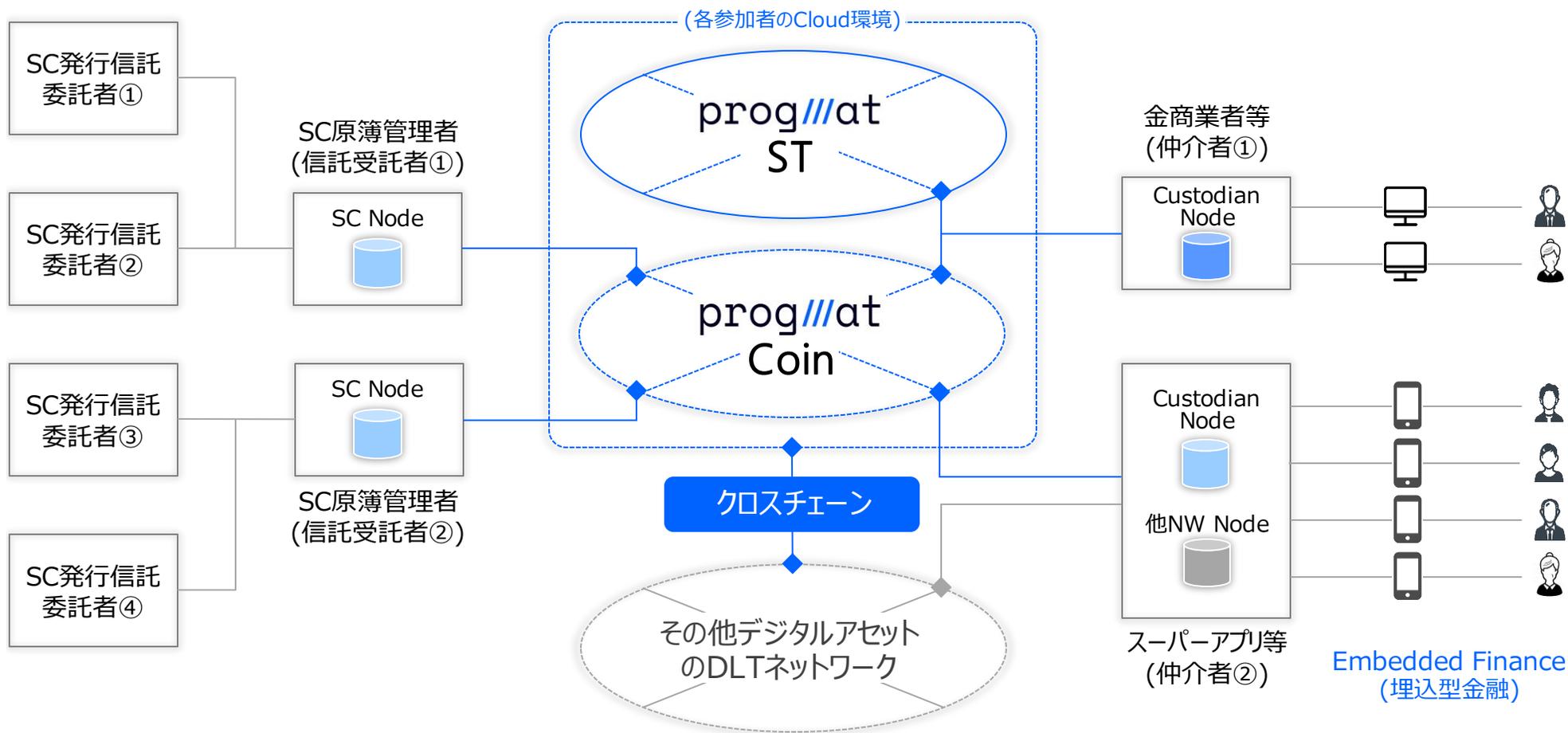
#02-1 「Progmat Coin」のコンセプト

- 「Progmat Coin」は、“1coin=1円”で価値が固定された、DLT上で移転可能なSCの発行・管理を目的としたプラットフォーム。
- 法定通貨を裏付資産とした受益証券発行信託(後述)を組成し、1円単位の受益権をSC化することで、償還の確実性を担保する。(倒産隔離)
- ユニバーサルなデジタルアセット決済手段を志向し、クロスチェーン技術を用いて、Progmat以外のSTを含む広範なデジタルアセットとの決済や、CBDCや他のSC等の決済手段とのシームレスな交換を実現する。



#02-2 「Progrmat Coin」のグランドデザイン

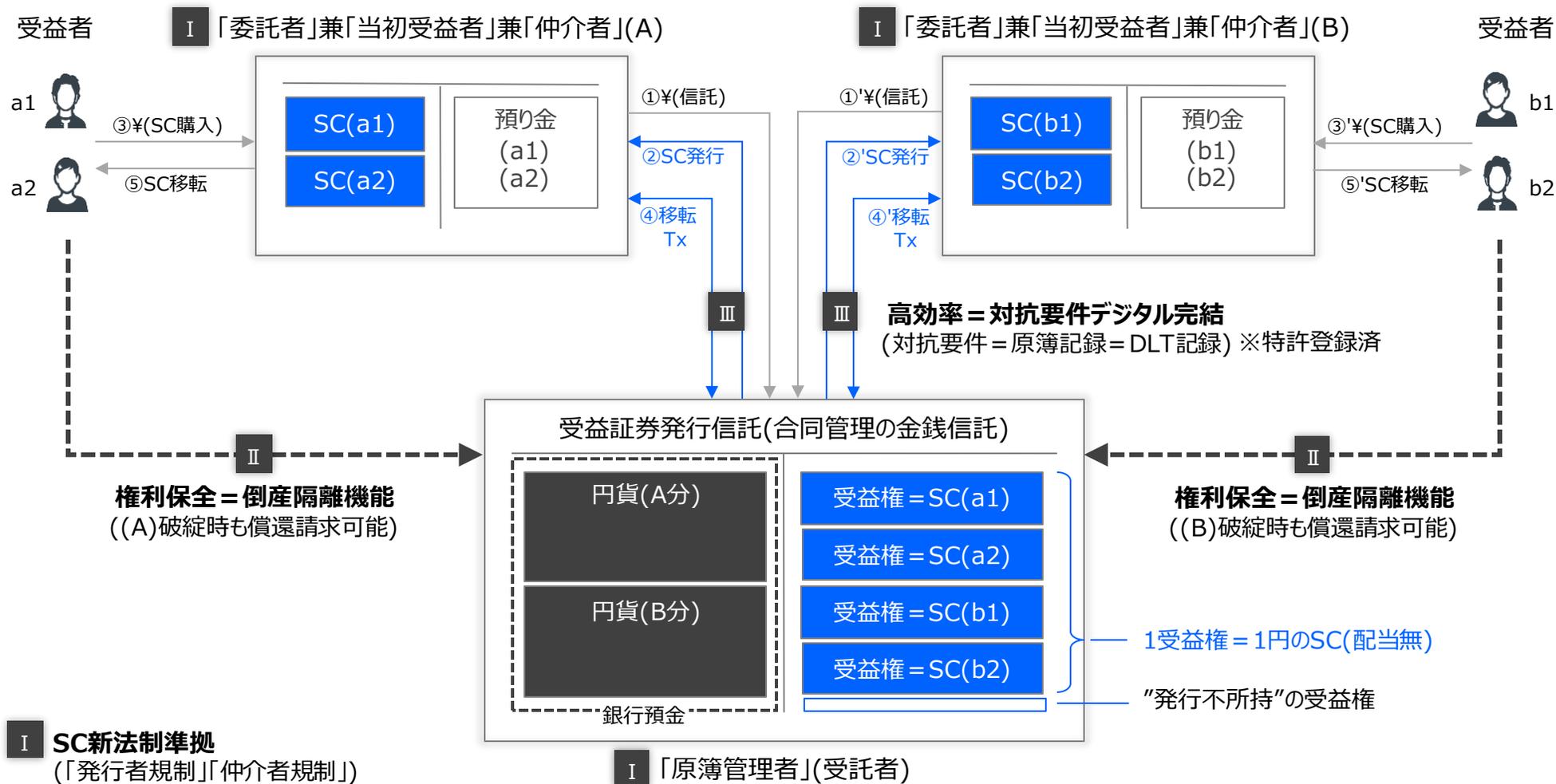
- 「Progrmat Coin」のネットワーク上には、SC発行用信託の受託者向けの「SC Node(以下SN)」と、自社チャネルの利用者向けにウォレットサービスを提供する仲介者向けの「Custodian Node(以下CN)」の2種類が存在し、広範な事業者の直接参加を想定する。
- ST×SCの決済利用を主とする金商業者は、単一のCNでST・SC双方のProgrmat NWに参加し、スーパーアプリ等はCN及びその他デジタルアセット別のNodeの双方を保持しつつ自社UIに組み込み(Embedded Finance(埋込型金融))、各チャネル利用者は各UIを介して日常的に利用する。



【凡例】 :Node(2つのNWに参加) :Node(1つのNWのみ参加) :Progrmat以外のNode 【SC Node】:自社SCの発行・償還機能を有する 【Custodian Node】:各デジタルアセットの移転機能を有する

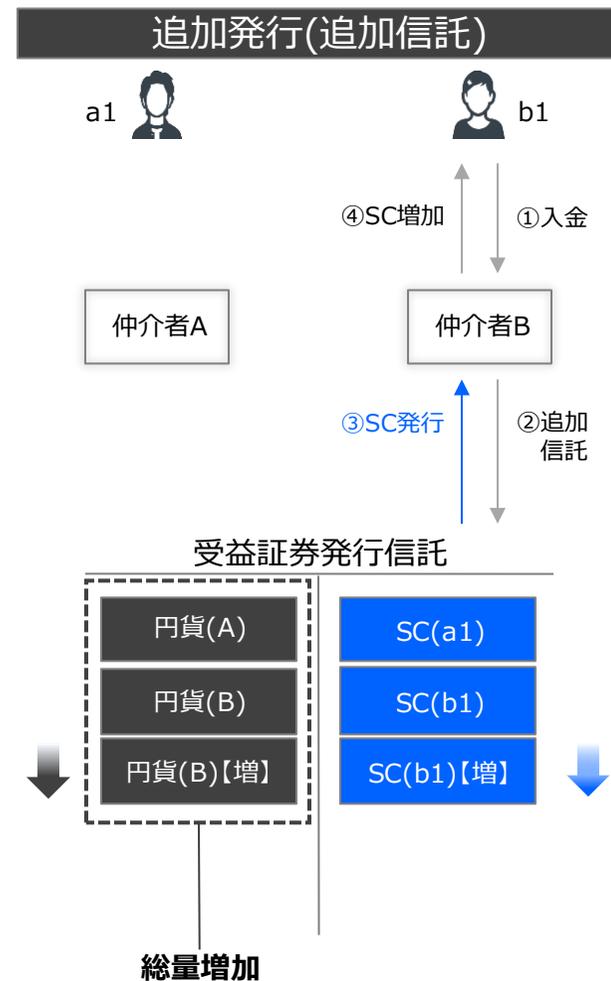
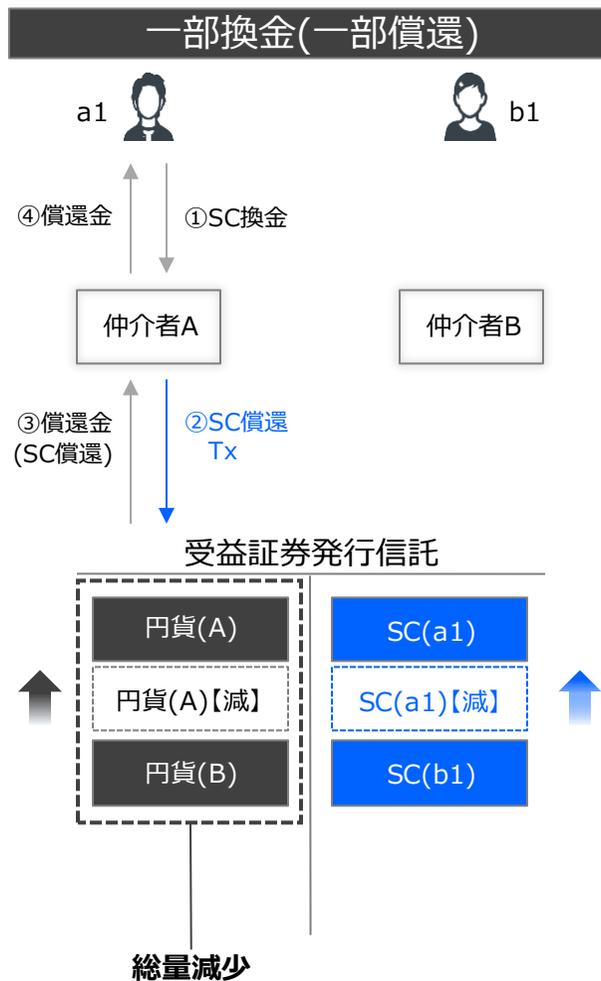
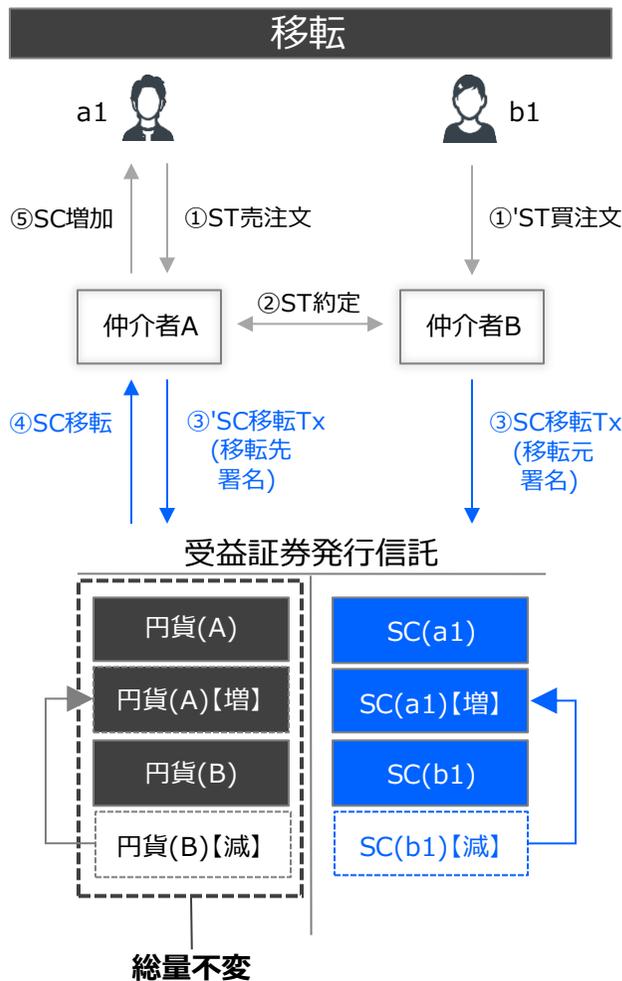
#02-3 「Progrmat Coin」のスキーム

- 委託者毎に異なるSCとすると、委託者を跨いだ換金対応等が煩雑化するため、複数委託者で受益証券発行信託を設定し、1円受益権を発行する。
- 【Ⅰ】新法制準拠：原簿管理者(受託者)と委託者兼仲介者とで、分担して運営する仕組みとし、夫々「発行者規制」「仲介者規制」に対応可能。
- 【Ⅱ】権利保全：信託の倒産隔離機能により、各仲介者破綻時も受益者は受託者に対して直接償還請求可能。
- 【Ⅲ】高効率：対抗要件問題なく、デジタル完結でSCの転々流通が可能。(特許登録済)



#02-4 ライフサイクル

- 仲介者を跨いだSCの移転も、同じ器の中で受益者間の異動があるのみで円貨の総量は不変。（従って銀行口座振込は発生しない）
- 受益者からSC換金請求を受けた場合、仲介者は信託の一部償還により振り込まれた円貨を受益者に支払う。（予め立替での支払もあり得る）
- 投資家からの入金や仲介者経由で追加信託され、応分の受益権をSCとして当該受益者の残高を増加させる。

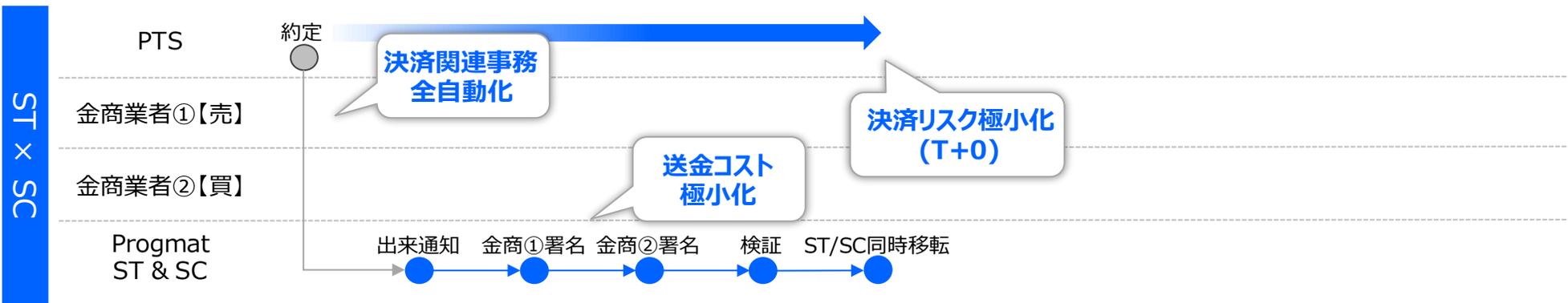
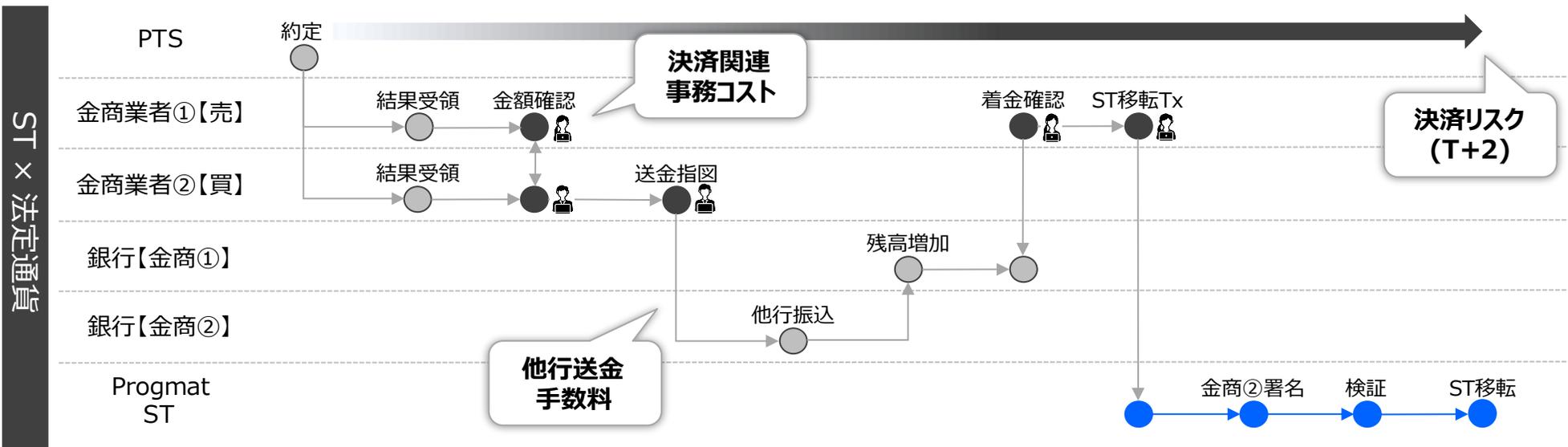


#03

// ユースケース「ST決済」

#03-1 ST取引におけるメリット

- ST取引において、資金決済手段が法定通貨(銀行送金)しか存在しない場合、取引から決済完了まで(T+2営業日)の決済リスクがあるうえ、金商業者間での相対ネットイングのための金額確認や銀行関連オペ等の事務コストが掛かるうえ、他行送金手数料も発生する。
- ST/SCの一体処理が可能になると、決済リスクが極小化(T+0)され、全ての処理を全自動化可能で、且つ送金手数料も低減される。



【凡例】 ● :事務処理(人員介在要) ○ :自動処理(DLT外) ● :自動処理(DLT)

免責事項

- 本資料は、ディスカッション用に作成されたものであり、三菱UFJ信託銀行の個別の商品、サービスを勧誘することを目的としたものではありません。本ディスカッション或いは資料だけで契約が成立するものではありません。従って、当社はいかなる種類の法的義務、或いは責任を負うものではありません。
- 本資料は信頼できると思われる各種データ等に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。また、本資料に関連して生じた一切の損害については、当社は責任を負いません。その他専門的知識に係る問題については、必ず貴社の弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談の上ご確認ください。
- 本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。当社の事前の承認なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。
- 商号等：三菱UFJ信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長（登金）第33号
- 加入している協会の名称：日本証券業協会 一般社団法人日本STO協会
一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料に関するお問い合わせ先
三菱UFJ信託銀行株式会社 経営企画部 デジタル企画室
プロダクトマネージャー 齊藤 達哉
(Mail) progmatt_post@tr.mufg.jp

prog//at | Security Token
Research Consortium

